

# 会長退任にあたって

産業医学推進研究会 名誉会長 宮本 俊明（7 回生）

産業医学推進研究会（産推研）は、1989 年（平成元年）に誕生しました。当時は産業医になる若手医師がほとんどいないなかで、産業医科大学を卒業して産業医を志して産業保健の道に飛び込んでみたものの、どう仕事を進めてよいかわからない、暗中模索の時代に皆が集まって知恵を出し、励ましあい、お互いの活動成果を披露して刺激しあう会として発足しました。時代は新しい令和となり、2019 年の第 31 回全国大会で会長も代替わりして 4 代目となり、私も浜口伝博先生に続いて名誉会長を拝命しました。

私が産推研会長職を引き継いだのは 2005 年の秋でした。もう 14 年も会長をやってしまい、もう少し早く次世代に引き継ぎたかったのですが、2019 年に大学開学 40 周年事業があり、東学長から、事業発起人として土肥誠太郎先生（同窓会長返り咲き）とともに必ず名前を入れるから命運を共にしろと強く言われて、思ったよりも長くなってしまいました。

産推研のあり方検討会からの答申に準拠して、当時の状況の改革を進め、研究会としての体裁と実力の涵養と、今につながる all 産業医大の活動につながる形態を指向してきました。その結果として、地方会の整備とともに全国大会を出身学部に関わらない産業保健同窓会の位置づけにしました。学術担当理事を設定し、学内の研究者との協働体制も構築しました。医学部同窓会や櫻風会とともに大学に協力するとともに意見を述べるが多くなり、現在はアリスの会とともに、同窓会とは別に役割を果たすようになっていきます。

そして東日本大震災の後の福島原発への支援と、その経験を生かした災害産業保健の構築、全国での自然災害での率先した支援にも、産推研メンバーが中心的に活躍してくれました。ストレスチェックや現在のコロナ禍で、労働衛生行政も産推研を頼りにすることが大変多くなってきており、いまや我が国の労働衛生に欠かせない集団になってきていると痛感しています。

この研究会の名称は初代学長の土屋健三郎先生が名付けた由緒あるものです。そして大久保利晃先生、東敏昭先生および土屋先生の盟友だったバイオコミュニケーションズの佐々木敏雄様が顧問としてご指導くださっています。労働衛生会館の山本雅裕理事長にも継続的にご支援を賜っています。この会が産業医科大学の精神の真髄であり、産業医大の社会的な価値を高めることに一役買っていることは疑いのない事実です。産業医大の建学の使命をまっすぐに受け止めている我々産推研会員こそが、大学と産業保健を盛り立てていけると信じて疑いません。そのために、苦しい時代であっても、まずは西会長を中心に、産推研が元気よく進んで行きましょう。これまで、どうもありがとうございました。

2020 年師走冒頭起草